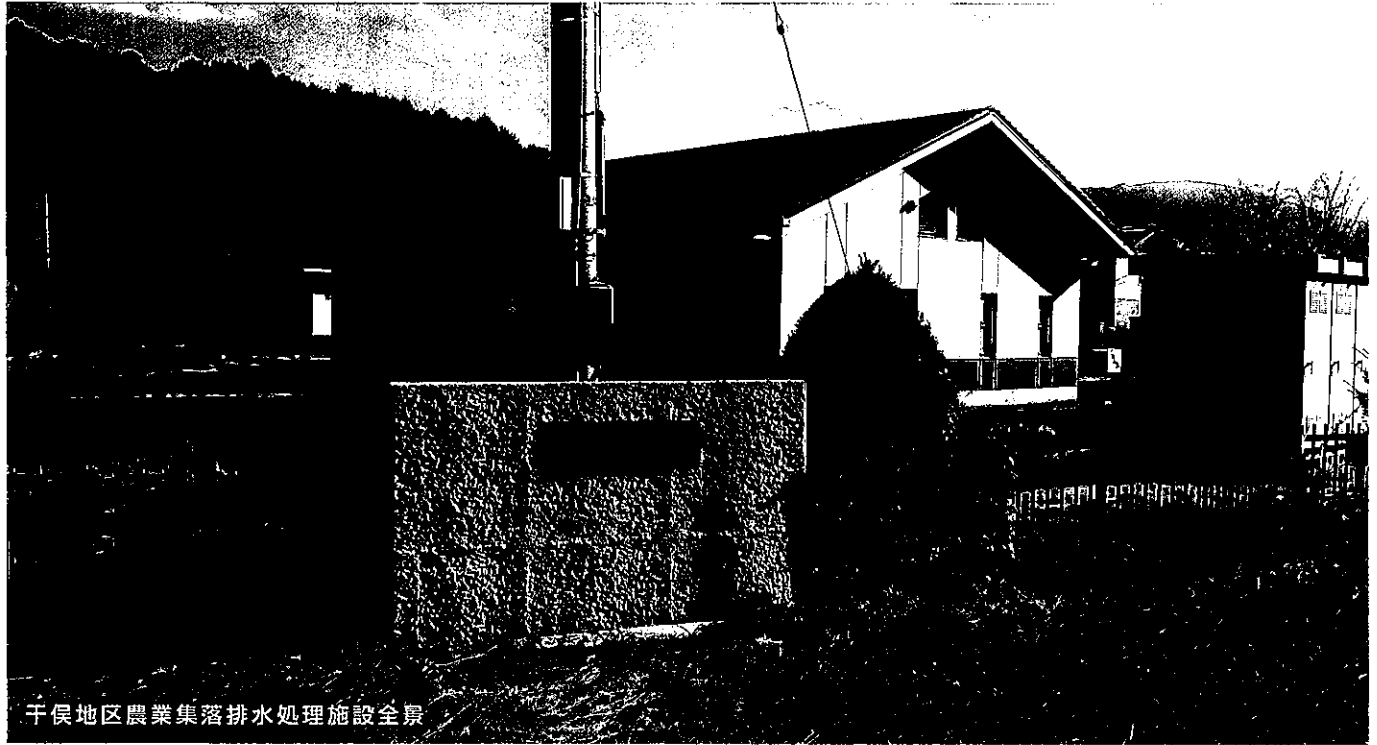


# ぐんま集排だより

第28号  
(令和6年3月)



千俣地区農業集落排水処理施設全景



## 嬭恋村の概要

嬭恋村は群馬県の最西端に位置する高原の村です。

村の東部を除く外周には浅間山・湯の丸山・四阿山・白根山など2000m級の山々が連なり、表・裏日本の分水嶺をなしています。また、山麓に広がる広大な自然は上信越国立公園として指定されています。

総面積は337.58km<sup>2</sup>、人口は85人(令和5年3月末)、村の中央部を西から東に吾妻川が流れ、集落の大部分はこの流域に散在しています。

地質は火山灰土の腐食土壌が多く、高原野菜の適地となっています。気候は高原地帯のため、平均気温は8℃前後で、一日の気温差が大きいのが特徴です。気温湿度は、避暑に最適であり浅間高原一帯は別荘地帯となっています。

嬭恋村の歴史は村内各地から発見される石器や土器などから、約6千年前縄文時代にさかのぼります。戦国動乱の世にあっては真田氏の領地となり、江戸幕府が成立すると真田氏の沼田藩領となりました。その支配は天和元年(1680)の真田氏改易まで続き、その後は幕府直轄領となり明治維新まで代官所による支配が続きました。

この間、江戸時代を中心とする時期には、上州と信州を結ぶ街道が整備され、沿道には宿場が設けられ、大笹には関所も置かれるなど、人馬の往来でにぎわいました。また、天明3年(1813)には浅間山の噴火があり

ました。噴火に起因する「土石なだれ」は浅間山北麓に大きな災害を発生させました。特に鎌原村は犠牲者47名など壊滅的な被害を受けました。

明治22年の市町村制の施行に伴い、現在の地区の前身である11の村が合併して現在の嬭恋村が誕生しました。村名は、日本武尊(やまとたけるのみこと)と愛妻弟橘姫(おとたちばなひめ)との間の口マンに満ちた伝説によるものです。

明治末期から試験導入された高原キャベツは、農地造成や道路改良などによって村の基幹産業に大きく成長し、夏秋キャベツの生産量は全国一位となっています。

令和元年10月12日台風19号(令和元年東日本台風)により、嬭恋村は過去最大級といえる甚大な被害を受けました。雨量は、鹿沢で村内最高の累加雨量485mmを記録し、特に鹿沢・田代・長井川原に大きな被害がありました。嬭恋村では10月12日を「嬭恋村防災の日」と定め災害に強い村づくりを目指しています。



夏秋キャベツの生産量全国一位

### 表紙写真

千俣地区農業集落排水処理施設

平成12年8月供用開始

・計画処理人口 1,800人

・計画処理量 486m<sup>3</sup>/日

発生汚泥は肥料化して地区農家に配布

発生肥料の量 約1,000袋/30kg/年

浅間山北麓ジオパーク認定について

『日本ジオパーク』認定地域として平成28年認定されましたジオパークは「大地の公園」と言われています。地域の美しい自然や学術的価値のある地形や地質に親しみその成り立ちを知り、楽しく学び、感じる事が出来る大地の公園です。

嬭恋村と長野原町にまたがる浅間山北麓一帯で、天明3年の浅間山の大噴火に伴い形成された天然記念物の溶岩樹型や鬼押出し溶岩、火山噴火の荒廃による植生の移り変わりなどが観察できます。また天明の噴火による被災を免れた鎌原観音堂では、災害と復興の歩みを人から人へ語り継いでいます。

ジオパークでは、これらの大地の遺産を守りながら教育やツーリズムに活かし、持続可能な社会を実現していく活動をしています。専門ガイドによるジオパーク案内ツアーを実施しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

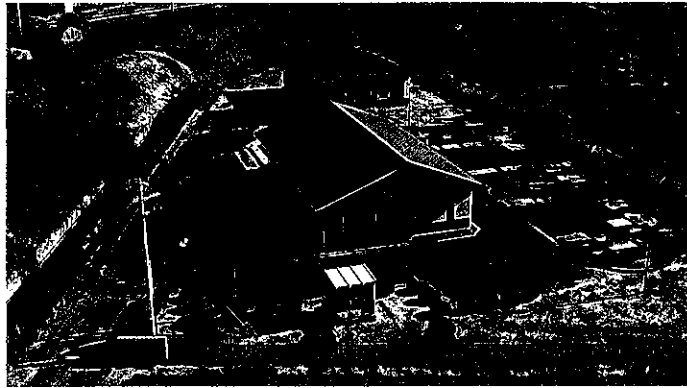
嬭恋村の農業集落排水事業

嬭恋村の農業集落排水事業は、農業集落において、農業用水の水質保全や生活環境の改善を行うことにより地域社会の活性化を図るため、平成4年度から事業を推進し、現在4施設を整備しております。

計画処理対象人口は80人、計画処理水量は100m<sup>3</sup>/日となっており、日々良好な汚水処理を実施しています。

供用開始が早い田代地区では28年、干俣地区で23年が経過し、老朽化により各種機器の故障が散発しています。修繕や更新を行い維持に努めています。

農業集落排水事業  
干俣地区農業集落排水処理施設



干俣地区農業集落排水事業概要

平成12年8月から使用開始されています。

1. 計画年次 平成8年〜平成14年
2. 計画人口 180人
3. 管路延長 約14km
4. 処理場
  - 所在地 嬭恋村大字干俣37-1
  - 処理方式 オキシレーションディッチ方式
  - 管理棟 鉄筋コンクリート造
  - 汚泥処理棟 地上1階地下1階 288m<sup>2</sup>
  - 鉄筋コンクリート造
  - 地上1階 121m<sup>2</sup>
5. 計画事業費 約20億円

沈殿槽

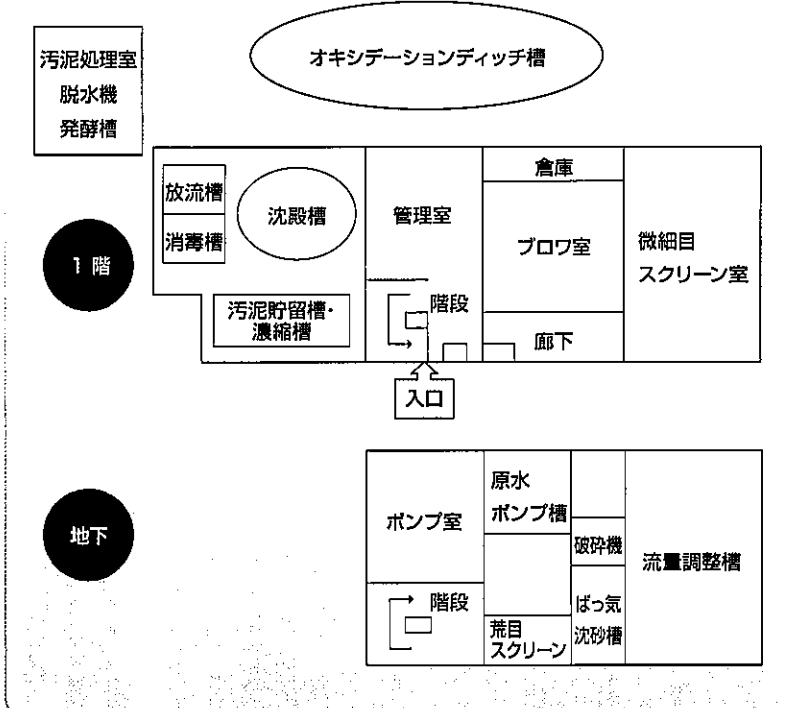
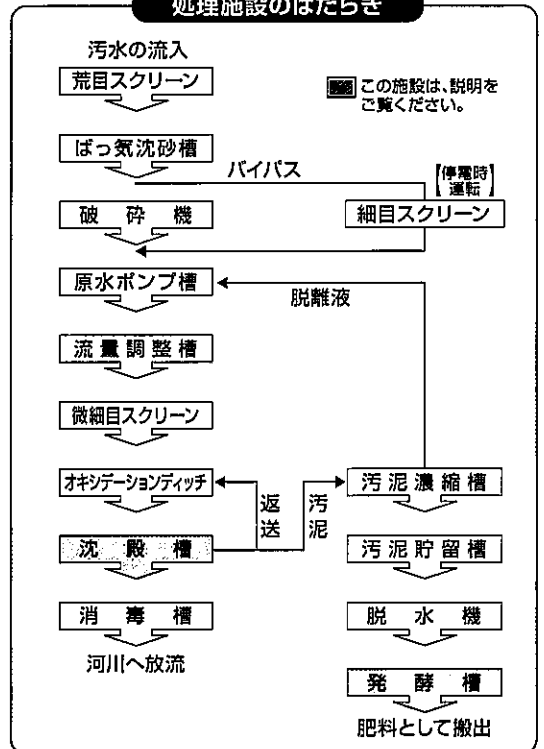
この池の構造は、すりばち状の構造になっていて、池の中に汚泥掻寄機が設置されています。静かに回転させると、きれいな水と汚泥に分離し、汚泥はポンプで引き抜かれ、汚泥濃縮槽へ運ばれます。ここまでの行程で汚れの99%が除去された水は、消毒し、河川へ放流されます。

発酵槽

きれいな水と分離した汚泥は、脱水機により粘土状に圧縮脱水され、その後、電気によるヒーターで乾燥された後、発酵槽へ運ばれます。ここで発酵を経て粒状の肥料となり袋詰され搬出されます。



処理施設のはたらき



# 汚泥資源を利用した肥料成分を保証可能な 新たな公定規格「菌体りん酸肥料」について

群馬県県土整備部下水環境課

## 1. 汚泥資源の有効活用 について

農業生産に必要な不可欠な肥料は、その原料の多くを海外に依存していることから、国際市況や原料産出国の輸出に係る動向の影響を強く受けやすい状況です。そのため、海外からの輸入原料に依存した肥料から、国内資源を活用した肥料への転換を進め、国際情勢に左右されにくい安定的な肥料の供給と持続可能な農業の生産を実現する必要があります。

そのひとつが下水等を処理する過程で発生する「汚泥資源」です。汚泥資源は肥料成分(特にりん酸)を含む資源であり、これまで「汚泥肥料」の原料として利用されてきました。

汚泥肥料は、一般的に成分のばらつきが大きいことから、肥料制度上、肥料成分が保証できず、他の肥料と混合して生産・販売することができません。このため、農林水産省においては、汚泥資源の肥料利用をさらに推進するため、汚泥資源を利用した肥料のうち、品質管理が徹底され、肥料成分を保証できるものについて、新たな公定規格「菌体りん酸肥料」を創設しました。

## 2. 「菌体りん酸肥料」について

菌体りん酸肥料は、肥料登録に先立ち、肥料の原料管理や肥料の品質管理などを定めた「品質管理計画」を作成し、農林水産大臣による確認を受けることが義務付けられます。この品質管理計画に基づいて生産されることで、品質管理が徹底され肥料成分が安定することから、菌体りん酸肥料は肥料成分を保証することが可能になり、また、他の肥料と混ぜて生産・販売することができるようになります。

## 3. 農業集落排水汚泥との 関連について

農業集落排水汚泥を菌体りん酸肥料として活用するには、「品質管理面等」を考慮すると、個々の農業集落排水処理施設で乾燥等により肥料化している現状では困難と推察します。

今後、汚泥処理施設の検討する際に、広域化・共同化することによって、汚泥の品質管理が効率的に行えることから、菌体りん酸肥料の生産判断材料の一つにすることは、有効な手法であると考えています。

今後は、世界情勢等により肥料

価格が高騰する中、県内でも農業集落排水汚泥を積極的に活用されるよう期待します。



### 嬭恋村の農業集落排水事業

千俣地区 千俣区長 千川豊希

私の住む千俣地区の主要な産業は農業で、四阿山麓に広がる耕地に高原野菜を栽培しています。近年、国営農地開発事業が実施され、経営の規模が拡大し嬭恋村の夏秋キャベツ出荷量は全国でも大きなシェアを占めるに至っています。また、観光地にも恵まれ、バラギ地区のスキー場やペンションは、賑わいを見せています。

本地区の農業集落排水事業は平成8年村当局により事業が採択され、同年に工事が着手されました。平成12年度には一部が供用開始され、平成14年度に総額20億円余りの事業費により完成し現在に至っています。

また、国営農地開発事業(H14完了)により整備された幹線道路(パノラマライン北ルート)が千俣地区に開通、基盤整備促進事業千俣地区(H13完了)により集落手前の畑や水田の圃場整備が実施され、以前は湿地で荒が

生い茂る荒地が、現在では基盤整備が完成し、担い手農家が耕作を行っている事も、耕作放棄地はほとんど見られなくなりました。

集落排水施設も完成と同時に各家の接続工事が進み、生活排水が流れ込む排水路はおいが無く、集落内の生活環境は大きく改善しました。

このことをきっかけに、地区住民の環境に対する意識は大きく高まり、千俣川沿いの道路には桜が植樹され、現在では春になると桜が一斉に開花し住民の目を楽しませていきます。

終わりに、山間地の農業集落は生活環境の整備や後継者の育成など課題は山積していますが、農集排水事業による衛生的な生活環境の整備

### 令和4年度 事業報告

(令和4年4月～令和5年3月)

- 令和4年 6月 ・会計監査
- 7月 ・役員会
- ・第32回通常総会
- ・通常総会(群馬県)
- 7月～10月 ・農業集落排水に関する絵画コンクールの実施
- 10月 ・「ぐんま集排だより」編集委員会
- 令和5年 2月 ・全国農業集落排水事業推進研修会(オンライン)
- 3月 ・機関誌「ぐんま集排だより」(27号)発行

が若者の定着を支援し地域の発展の大きな力となっています。

## 第33回通常総会



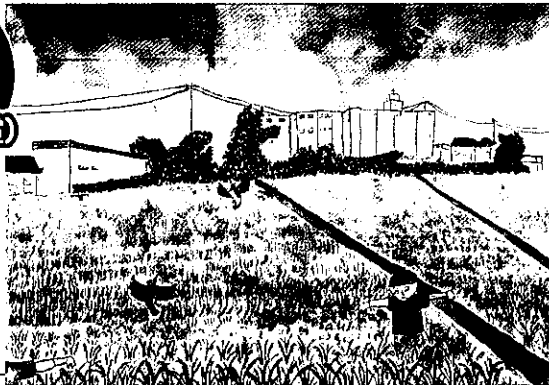
令和5年7月25日(水)、前橋市工業会館において、会員並びに関係者35名出席のもと第33回通常総会が開催されました。会長の山本 龍前市長の代理として前橋市水道局 金田局長、群馬県県土整備部下水環境課 吉井課長主査より挨拶をいただきました。その後、金田局長が職員となり職員に引き継がれ、すべて原案のとおり可決承認されました。

また通常総会終了後に研究会として、群馬県県土整備部下水環境課 吉井課長主査より「群馬県汚水処理計画の改定について」、一般社団法人 地球環境研習センター「集落排水部」佐藤技術員より「排水汚泥の有効活用について」の講演をいただきました。

# 絵画コンクール作品紹介

## 農業集落排水に関する絵画コンクールについて

群馬県農業集落排水事業連絡協議会の広報活動の一環として、農村地域の環境保全と農業集落排水事業の啓発・普及を目的に農村地域における「水と緑を取り巻く環境」を題材に令和5年度絵画コンクールを実施しました。応募作品については、農業集落排水事業を実施している21市町村に募集を行い147作品の応募がありました。審査については、専門知識者による事前審査のあと、令和5年10月6日(金)に審査会が行われ、優秀賞(群馬県知事賞)、上毛新聞社賞、群馬テレビ賞、エフエム群馬賞、連合会長賞、協議会長賞の上位6作品、優秀賞7作品及び佳作11作品を決定しました。



### 豊かな水で育つ稲

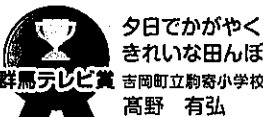
吉岡町立明治小学校  
5年生  
八木橋 滯

一学期に総合の学習で田植えをしました。稲がすくすくと育ち、とても嬉しかったので、学習田の様子を描きました。稲がすくすくと育つのは、豊かな水があるおかげだと思います。吉岡のすばらしい自然と豊かな水に感謝して、お米ができたありがたいたがたいです。

### 自然の恵みに感謝して

中之条町立中之条小学校 4年生 篠原 優

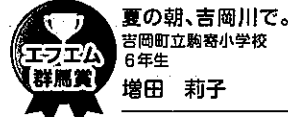
先祖代々守ってきた田んぼの近くを流れてくる久森(くもり)の沢から湧き出る水で「おいしいお米が沢山とれたんだ」とうれしそうに話していたおじいちゃん。今は、八ッ場ダムの底に沈んでしまいました。まだ、ダム建設反対運動が盛んだった昭和のある日常風景を想像して、描いてみました。



### 夕日がかやくきれいな田んぼ

吉岡町立駒寄小学校 4年生  
高野 有弘

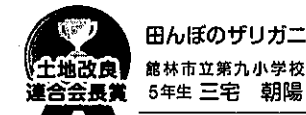
ほくのおじいちゃんの田んぼは駒寄小学校の5年生が田植えの体験をする田んぼのとなりです。今年もほくは、おじいちゃんの田んぼの田植えの手伝いをしました。夏休みの夕方、おじいちゃんと田んぼの水の様子を見に行くとき夕日があたってキラキラと、とてもきれいでした。トンボもたくさんとんでいてほくは、このきれいな水と田んぼを大切にしていきたいとおもったので、この絵を書きました。



### 夏の朝、吉岡川で。

吉岡町立駒寄小学校 6年生  
増田 莉子

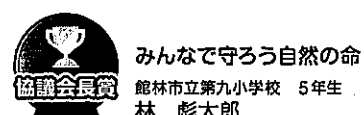
「農業集落排水」について描くコンクールだったので、自分の身の回りにある川を描こうと思い、近くを流れている「吉岡川」を描きました。川を久しぶりにきちんと見たので、その美しさにおどろきました。テーマは身近にある自然の美しさです。



### 田んぼのザリガニ

館林市立第九小学校  
5年生 三宅 朝陽

近所の田んぼにいたザリガニが印象的だった。ほくの身近な自然をテーマに描いた。



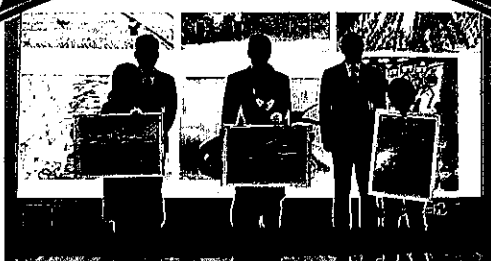
### みんなで守ろう自然の命

館林市立第九小学校 5年生  
林 彪太郎

これ以上つめつきくじゅうを増やさないためにも、みんなで自然を守ってきたいのでこのテーマにしたのと生物の絵を書くのが好きなので、このテーマにしました。



## 「絵画コンクール」表彰式が 開催されました。



表彰式は令和5年11月11日(土)、太田市「イオンモール太田」において開催された「ぐんまフェア」内で最優秀賞(群馬県知事賞)などの上位6作品の表彰が行われました。子ども達の描いた絵画を通じ農業集落排水事業に関心を持っていただけるよう、毎年実施しています。是非、令和6年度にご応募ください。

優秀賞		
吉岡町立駒寄小学校 4年生	眞下 美陽	自然ゆたかな田んぼ
吉岡町立駒寄小学校 6年生	高野 侑加	サギの舞う美しい田んぼ
吉岡町立駒寄小学校 3年生	小池 環	大切な田んぼ
中之条町立中之条小学校 4年生	山田 羽玖	田んぼにいる生きものたち
中之条町立中之条小学校 4年生	萩原 沙那	とんぼがとんでいるところ
吉岡町立駒寄小学校 1年生	ちぎり いつき	とんぼとたんぼ
吉岡町立駒寄小学校 5年生	赤城 美空	みんなで植えた田んぼと生き物たち
佳作		
吉岡町立明治小学校 5年生	南雲 海雲	美しいサギと田んぼの絶景
吉岡町立駒寄小学校 4年生	小池 紗雪	赤城の水車小屋
吉岡町立明治小学校 5年生	神山 拓巳	きれいな水と生物
中之条町立中之条小学校 4年生	佐万 アンジェリカ	どじょうが出てきた田んぼ
館林市立第九小学校 2年生	河田 暖叶	田んぼの生き物たち
館林市立第九小学校 4年生	河田 楓叶	田んぼの生き物たち
吉岡町立駒寄小学校 2年生	伊藤 愛桜	田うえはたのしいな
中之条町立中之条小学校 4年生	山崎 凜	川で見たホタル
吉岡町立駒寄小学校 3年生	川本 り子	おじいちゃんの田んぼ
吉岡町立明治小学校 3年生	大友 寿人	夏の田んぼ
中之条町立中之条小学校 4年生	富沢 俊星	田んぼと虫